

〔説明会〕

●京都市の情報産業
関連施策について

市企画調整局活性化推進室課長折坂義雄氏より「京都市地域情報化基本計画」に基づく「情報網 洛中洛外」について、その目的、コンセプト、メリット、基本概要について説明をいただいた。

引き続き、京都市の情報関連の外郭機関の紹介として

①(財)京都高度技術研究所について

同研究所第二研究室長の好川哲人氏より、ソフトウェア・メカトロニクス分野における研究開発事業の内容について説明をいただいた。

②(株)京都ソフトアプリケーションについて

事業推進部長の米田昌弘氏より第3セクターとして情報化の即戦力化をめざした人材育成を行うための研修事業や教育カリキュラムを説明をいただいた。

説明終了後、活発な質疑応答が行われ、最後に小島副会長より閉会の挨拶があり、市のご出席者に対して盛大に感謝の拍手を贈り説明会を終了した。

全情連への入会が決定

今年度事業の一つとして取り組んできました全国地域情報産業団体連合会(全情連・ANIA)への入会について、六月三日に開催された全情連理事会および総会に於て京都情報サービス産業協議会の入会が承認されました。

入会に際し、全情連総会への出席要請と、第十三回全情連大会「あきたフォーラム」への参加案内を受け、六月二日から四日に亘って開催された同フォーラムに白石会長が出席しました。以下にその概要を報告します。

全情連平成六年度通常総会

六月三日午前十一時より全情連平成六年度通常総会が開催され、京都情報サービス産業協議会の入会が承認されました。

総会議案審議は次のとおり。
第一号議案 平成五年事業報告
第二号議案 平成五年決算報告
第三号議案 平成六年事業計画

・総会 年二回開催
・理事会 年三回開催
〔総務企画委員会事業〕
・全国大会 年二回開催
・委員会 年二回開催

〔組織強化委員会事業〕
・未組織地域の組織化および未加入団体の加入促進
〔事業推進委員会事業〕
・委員会 年六回開催

〔事務所の東京事務所開設〕
JISAの好意により、全情連の事務所をJISA事務所の一部に開設する。

以上の議案が承認され、午前十二時閉会した。

〔白石会長入会挨拶要旨〕

京都情報サービス産業協議会の白石でございます。このたび全情連へ入会させていただきました。有難うございました。

私達の協議会は、京都府下の主要十四社が結束して昨年十一月に発足した新しい協議会でございます。昨今の厳しい経済情勢の折柄、主要十四社が先駆者となり、協議会活動の定着と魅力ある協議会作りを努め、その上で会員増強を図ろう、という二段階でスタートしました。

協議会の発足によって会員が共有することになった目的は、そう簡単に実現するとは思いませんし、地域協議会として単独で活動していくこと自体大変でございます。私達の協議会にはJISAの会員企業も数社ございますが、それよりも協議会の団体に参画していくことが必要であるし、このことで一つでも多くの目的の実現を図っていきたくと思っております。

また、主要十四社が会員増強に取り組みにしても、魅力ある協議会にしていかなければなりません。今回入会させていだき、皆さんと親交を深めさせていただくことになって、このことが私達の協議会の魅力作りの第一歩として大きな力とさせていただきます。

同時に、連合会の目的に参画

させていただき、京都に於いて協議会の充実を図ると同時に、地域の発展に少しでも寄与できれば、という思いでございます。今後ともよろしくご指導の程をお願い申し上げます。



全国大会「あきたフォーラム」

通常総会後の六月三日、午後一時より全情連会員以外的一般入場者を含む約三〇〇名が参加し、全情連全国大会「ANIAあきたフォーラム」が盛大に開催された。

フォーラムは三部で構成され、第一部は開会式および文化講演、第二部は基調講演、第三部は会員懇親会と進み、秋田民謡、なまはげ、竿燈まつり演技、地酒コーナーと郷土色豊かな催しで、午後八時三十分閉会した。

会報

編集：協議会事務局

第一回通常総会開催される

通常総会

京都情報サービス産業協議会の第一回通常総会が、平成六年四月二十二日(金)、午前十時三十分より平安会館において開催された。来賓として府中小企業総合センター経営課長藤井康男氏、府商工部工業課主幹手塚勝利氏のご臨席のもと、会員12社19名(欠席2社は委任状提出)が出席した。

白石会長の開会挨拶に続いて、府中小企業総合センター藤井課長にご祝辞を賜ったあと、白石会長が議長に選出され、議案審議に入った。

先ず、「平成五年度事業報告・会計報告並びに監査報告」が行われ、引き続き「平成六年度事業計画・予算」について審議がなされ原案通り承認された。

白石会長挨拶

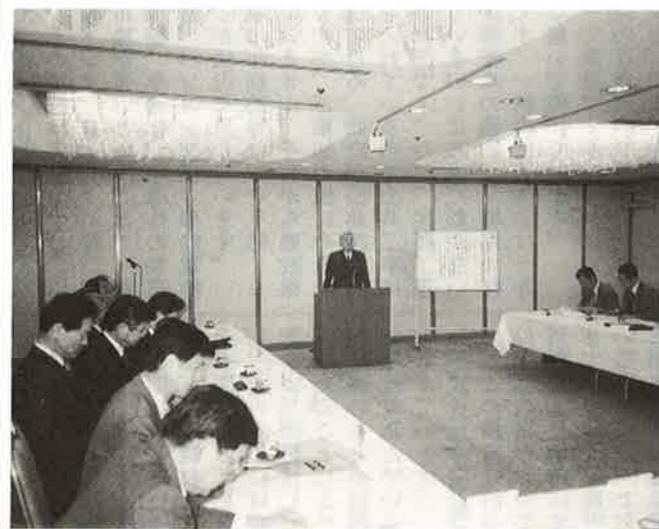
初めての通常総会になります。このように開催出来たのもひとえに日頃の皆様のお力添えの賜物と感謝しております。

昨年の設立総会以後、未だ約四カ月足らずではありますが、

この半期間における実績としては概ね満足のできる出足ではなかったかと思っております。本日は幹事の皆様方にご検討いただいた平成六年度の事業計画についてご審議をいただきました。今年度と致しましても、前年度に引き続き協議会自体の足を固めていく事を重要課題としていきたいと思っております。このためにも会員交流にさらに積極的に取り組むと共に、地域

団体としての全国的視野に立ち我々以外の地域の協議会活動がどのような活動をしているのかも十分参考にし、また参考にすることによって我々の協議会活動の充実を図っていかなければならないのではないかと考えております。

また、本日はご来賓としてご臨席を賜りました京都府の関係者の皆様にはいつも色々とお世話話になりこの場をおかりして厚



通常総会議事進行風景(白石議長)

く御礼申し上げます。

皆様方にはかねてから協議会についてこれまでにもいろいろアドバイスを頂戴してまいりましたが、ご承知の通り大変長期に亘る景気低迷下、大変な時期を迎えておる訳であります。ここにきて多少底をついて明るさが出てきたのではないかと言われますが、私共の業界と致しましてはまだまだ厳しい状況が続いております。この協議会も設立から間もなく、まだまだ皆さんの期待に添える処までは至っておりませんが、こういった時こそ相互の交流を図って共通する認識の基盤の中から具体的なテーマというものが形成されてくるものではないかと思っております。本月初めの通常総会のご審議をいただきますが、このご審議をふまえて引き続き皆様方のお力添えを是非お願い申し上げます。一言開会の挨拶とさせていただきます。

府中小企業総合センター
経営課長
藤井康男氏ご挨拶
平素は京都府政の推進につきまして皆様方のご支援、ご協力をいただき、この席をおかりして厚く御礼申し上げます。

京都情報サービス産業協議会は、ただ今、会長からご挨拶がありましたように、昨年の11月

に、14社にて発足され、今年は二年目という非常に大事な年を迎えられる訳でございます。当協議会の設立趣旨に沿って本格的に事業を展開されるのは今年度からだと思います。

本日は六年度の事業計画を審議されますが、会員の交流会であるとか、講演会であるとか、その他色々な事業のご計画を予定されております。是非計画に基づき事業の積極的な展開をしていただきたいと思います。

京都府と致しまして出来る限りのお手伝いをさせていただきますと思っております。

今後、本協議会の存在をアピールし、事業の中身を一層強化し、充実してほしいと願っております。

◎「最近の京都府の景気動向について」

最近の景気動向につきまして、金融機関やエコノミストの発言や新聞等々から、どうも三、四月あたりが底だということがほぼ間違いのない感じがします。ただ実態はどうですか。

当センターで三ヶ月毎に景気動向調査を実施しており、直近では一月〜三月の景気動向としてまとめましたが、実績は非常に悪い状況です。確かに今後の見通しについてはマイナスが少なくはなっており、経営者の方々は良くなるだろうという期



藤井康男氏ご挨拶

待感を持っておられ、企業マインドとしては明るい方向では増えていると思っております。これが広がっていくことが非常に大事です。

一〜三月の景気動向では、まず繊維産業という京都の代表的な産業ですが、これを大きく分けると、丹後白生地、それと西陣(帯、ネクタイ、友禅、広幅染色等)、さらに室町の卸などがあります。総じて一〜三月につきましては良い材料はありませんが、特にネクタイは輸入品の関係で厳しい状況です。

次に機械金属業界ですが、鉄鉄物、電気機械、精密機械、一般機械などが代表的な業種です。これらの業種の中で、一部に明るい部分があります。明らかなのは電気・精密機械業界で、

全てではなく品目によつてです。その要因は海外です。米国、東南アジア、ヨーロッパ等、海外市場が良いということ、通信機器、半導体、半導体の製造装置、パソコン関係、移動電話などが活況を呈しています。

次に印刷業界は、そう悪くないとは思いません。それから建設業界ですが、ご承知の様に今景気回復のため、政府が公共投資に力を入れているので公共工事は良い状況です。ただ、民間工事でもいまのところ未だ動かないのが商業用の建物、工場用の建物です。一般の個人住宅は今非常に勢いで伸びています。

一方商業ですが、これは京都市内の百貨店の二月の売上を見ますと、ここ二十四ヶ月対前年割れが続いていますが、2月の時点で大体横並びに、要するに減少幅が狭まってきています。多分4月、5月あたりになると昨年度の売上は超えるのではないかと思います。

この様に、一〜三月について実態はそう良くなっていません。当センターが四〜六月期で調査をやる時には明るい材料が出てくるのではないかと考えております。

簡単ではありますが景気動向の話をお話させていただきます、本日の総会のご挨拶にかえさせていただきます。どうも有り難うございました。

いました。

平成六年度事業計画

長期に亘る景気低迷の厳しい状況下、協議会としても先ず足を固めることを最優先課題とし、そのためには会員相互の交流をより活発にし、相互の理解を深めることによつて共通の課題認識のもとで協議会の活動指針を絞り込んでいくことが重要と考えています。

平成六年度事業計画としては、この趣旨に沿って会員相互の交流の場をもつて交流と研鑽活動をより活発にすることに併せて、今年度は他府県に劣らない業界の地位向上をめざし、上部団体(全国地域情報産業団体連合会)の加入による全国地域団体情報チャンネルの確保と、行政機関及び関係諸団体との連携と関係強化を図る活動を推進します。

- ・総会 及び役員・幹事会の開催
- ・総会 年二回
- ・(秋期総会)は十月二十一日
- ・役員幹事会 必要の都度
- ・幹事会 原則月一回
- ・会員交流、セミナー等
- ・テーマ別会員交流会

(年五回開催予定)・秋期総会時に講演、セミナー等併催
情報収集、広報

府情報産業 関連施策説明会

昨年11月の協議会設立以後の最初の行事として、平成六年二月十八日、からすま京都ホテルに於いて、「京都府の情報産業関連施策」の説明懇談会が開催された。京都府から商工部工業課長小谷泰久氏、主幹手塚勝利氏、企画推進局情報システム課長漆崎雅巳氏、中小企業総合センター経営部経営課長藤井康男氏、にご出席いただき、会員13社19名が参加した。

まず、白石会長より「行政施策の理解を深めるこの様な企画を継続させ、行政と業界との協調の上に新たな課題を見つながら業界の発展と地位向上に結びつけたい」との開会挨拶がありました。

◎説明会

府情報産業関連 講師は工業課長小谷泰久氏



府情報産業関連施策説明会

①産業情報化の促進について、京都産業情報センターの各事業内容について説明をされた。②技術振興対策について、技術開発の促進を目的とした「技術改善補助金制度」及び京都産業技術振興財団の研究開発助成のテーマ募集等について説明をされた。

〔懇談会〕

引き続き懇談会として会員各社の自己紹介を行った後、情報関連施策紹介として、

企画推進局情報システム課長 漆崎雅巳氏より

「第4次京都府総合開発計画」の情報化に焦点を合わせた部分について、特に「府民ネット」中心にお話をいただいた。

また中小企業総合センター経営課長藤井康男氏からは

「京都府の情報産業実態調査(平成三年)結果」について説明をいただいた。

意見交換を行った後、最後に小谷工業課長より今回の説明会を総括していただき「協議会の方向を考える上において、個々の商売ベースではなく共通に困っている事など、何が議論した

いかに明確にする事が必要、性急にせず着実にテーマを見つけてほしい。府のソフトウェア業は付加価値が低いとの統計が出てくるが、どのように改良すべきか、先進地域ではどうしているか等、現地見学等もこの様な会の方向性の一つではないか。行政としても出来るだけのお手伝いをさせていただく」との暖かいアドバイスをいただいた。

最後に水野副会長より閉会の挨拶として「示唆にとんだ良いお話をさせていただき大変参考になった」と府のご出席者に対し謝意が示され盛大にお礼の拍手を贈り散会した。

市情報産業 関連施策説明会

四月二十二日の通常総会終了後、引き続き「京都市の情報産業関連施策説明会」が開催された。水野副会長より「協議会とし

て足場を固める時期であり、是非行政のあたためたいご指導をお願いしたい」との開会の挨拶に続き、京都市を代表して経済局商工部産業振興課長の大槻泰氏よりご挨拶をいただき、その後説明会に入った。

市経済局産業振興課長

大槻 泰氏ご挨拶

四月に今のポストにまいりまして、まだ何もわからないまま毎日をご過ごしているような状況でございます。今後皆様方には何かとお世話いただくことにならざると思っております。皆様方には先程平成六年度の通常総会を滞りなく終えられましたことをお喜び申し上げますと共に、本市の情報産業関連施策についてご説明の機会を与えて下さったことに厚く御礼申し上げます。

京都情報サービス産業協議会は、京都で初めての情報サービス産業の業界団体として昨年11月に発足をされた訳であり、既に地域情報産業の振興のために活発な取組を展開されておることにご敬意を表すものでございます。情報サービス産業は、技術革新と経済のソフト化・情報化により急激に伸びてきた業界であり、創業の半数以上が昭和五十年代以降という非常に若



市情報産業関連施策説明会

くて大きな可能性を秘めますが、それゆえ小規模な企業が多いのが特徴と聞いております。また新しい歴史の中で、その主力サービスが情報処理サービスからソフトウェアサービスへ、そして今システムインテグレーションサービスやアウトソーシング等の統合サービスへ、さらには家電メーカー・通信・教育・出版など幅広い業界との融合発展が期待されているマルチメディアと、激しく変化している状況にあると認識しております。21世紀に向けて情報化への対応はますます重要になり、その技術革新は日々進み、またその新技術に対してユーザーのニーズに的確に答えられる高度の知識技術を持った技術者の確保がより一層求められる状況であ

ります。本市におきましても情報化の対応がこれからの地域産業、地域社会の重要な位置を占めることを考え、全国に先駆け「(財)京都産業情報センター」を設立し、次いでソフトウェア技術、メカトロニクス技術に関する研究開発を行う「(財)京都高度技術研究所」を設立、その翌年に上級SE養成のための「(株)京都ソフトウェアリサーチ」を設立し、高度情報化社会における技術基盤の確立と高度な技術者の供給を確保し、情報化の発展に努めているところであります。

また京都の情報化に関する総合計画を作成する為の「京都市地域情報化基本計画策定委員会」の答申を受け、地域社会の要請や市民のニーズに合致した情報化社会を実現するため、誰もが何時でも身近な場所で情報を受発信できる市民に開かれた情報ネットワーク「洛中洛外」の構築を現在進めております。本日はそれぞれの部署で京都の情報化推進に日夜取り組んでおられます責任者の方々より各分野についてご説明をさせていただきます。

最後になりましたが、協議会の一層のご発展をお祈りし、京都の情報化の進展のためさらなるご理解とご協力をお願い致します。ご挨拶とさせていただきます。